

# 第1部 基本分析編

## 第1章 区別の人口の状況

### 1. 区別の人口の推移

#### (1) 人口と増減率

平成22年における各区の人口をみると、平野区が20万5人と最も多く、次いで東淀川区が17万6585人と多い。

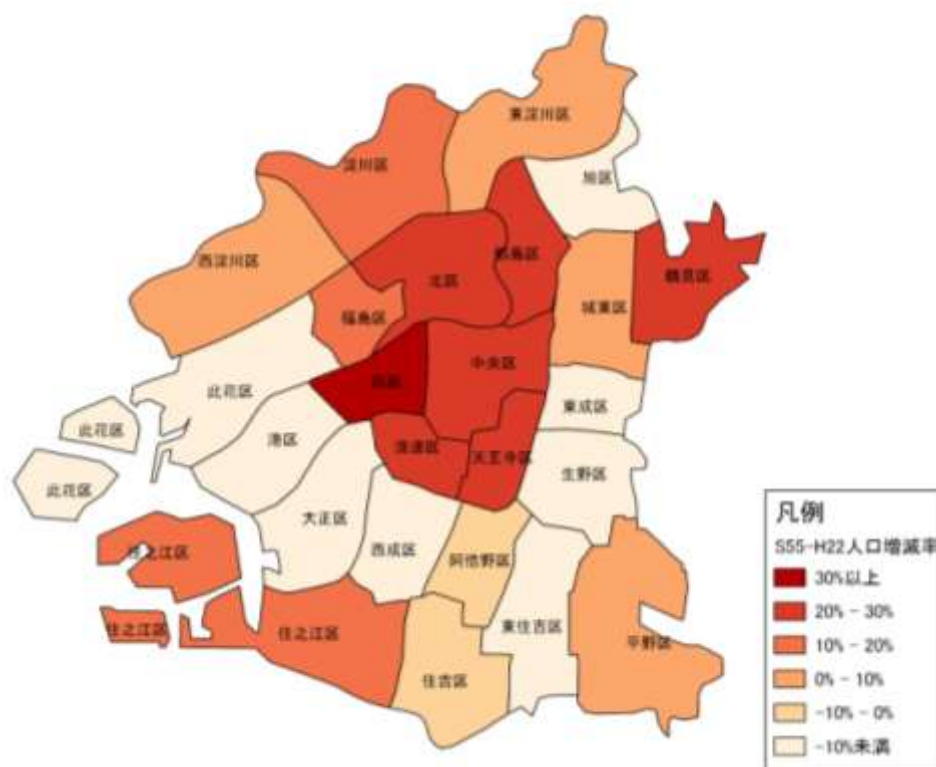
また、昭和55年における人口と比較すると、西区が2万9363人、鶴見区が2万2495人と大きく増加している一方で、生野区は△3万9774人、西成区は△2万8848人と大きく減少している。

この30年間の人口増加率をみると、西区が54.7%と最も高く、天王寺区が26.2%、北区が25.5%、鶴見区が25.4%、浪速区が23.2%と、都心部およびその近辺の区で高い。最近の5年間の人口増加率をみても、中央区が17.8%、西区が14.4%、浪速区が14.0%、福島区が10.4%と都心部で高い。一方で、西成区が△8.1%、大正区が△5.1%と周辺部では減少率が高い。

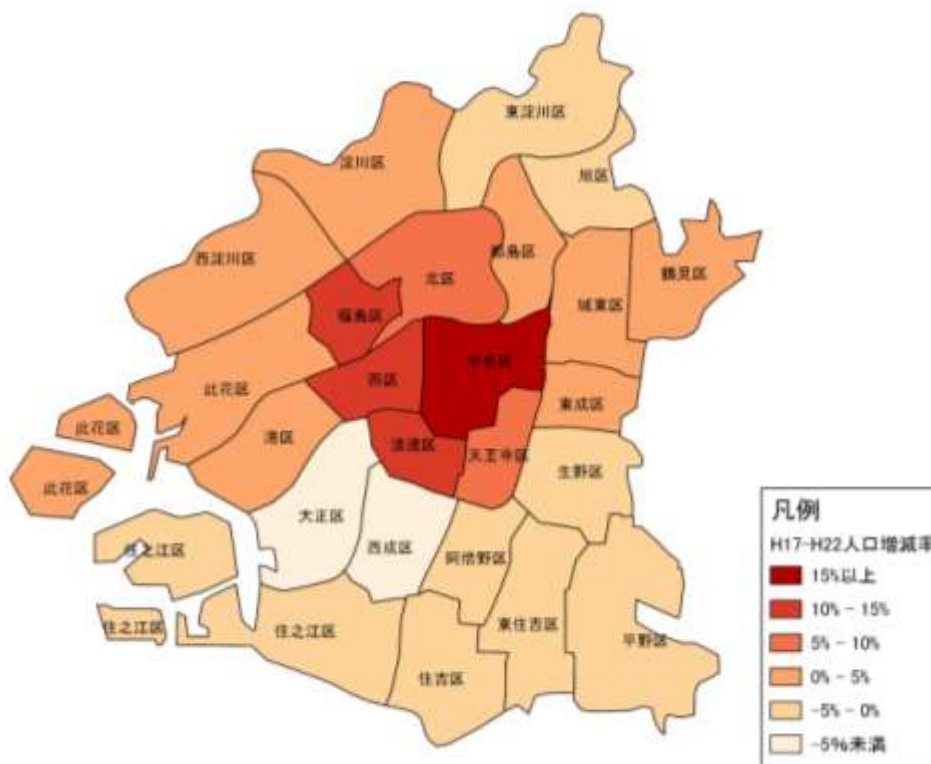


出典：昭和55年～平成22年国勢調査（総務省統計局）

【過去30年間（S55～H22）の人口増減率】



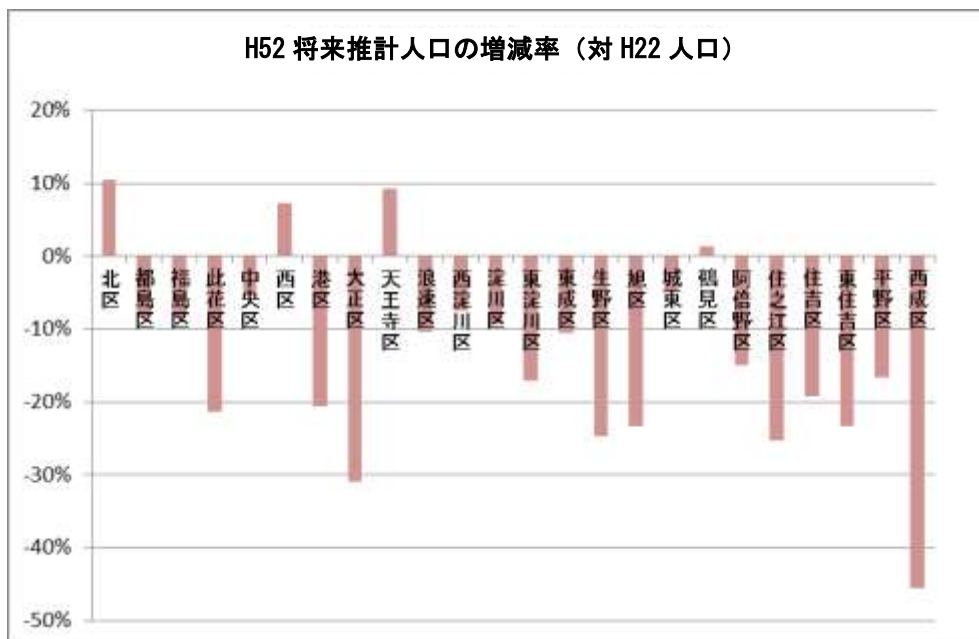
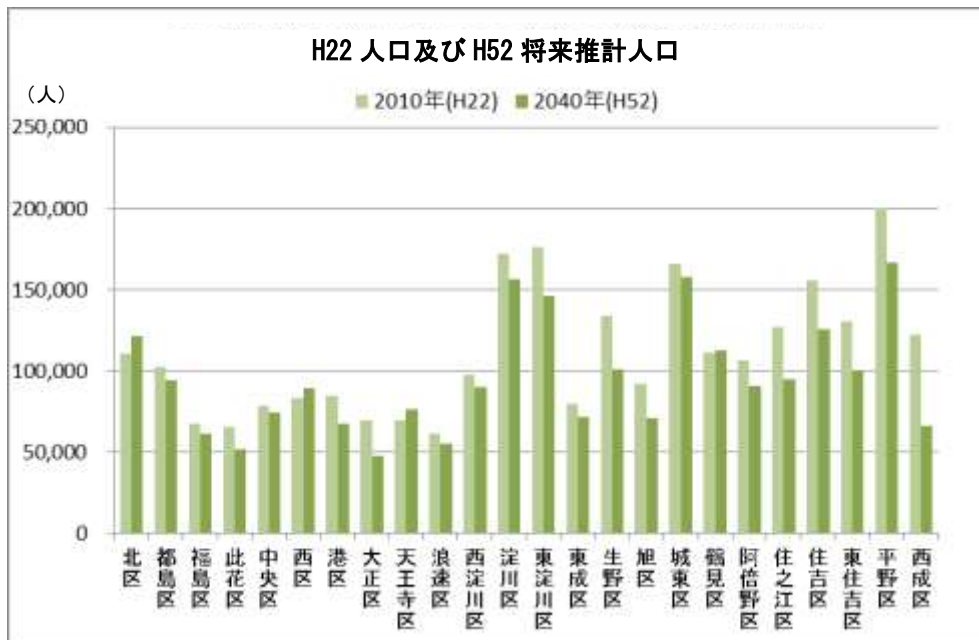
【最近5年間（H17～H22）の人口増減率】



出典：昭和55年、平成17年、平成22年国勢調査（総務省統計局）

## (2) 将来推計人口にみる将来動向

各区の将来推計人口をみると、平成 52 年における将来推計人口では、大半の区で人口が減少する推計となっている。人口増加率は北区が 10.4%、天王寺区が 9.3%と高く、人口減少率は西成区が△45.6%、大正区が△31.0%と高い。



出典：日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

この将来推計人口の推移について、平成 52 年で人口が増加している北区、微増している鶴見区、平均的な減少傾向を示す浪速区、大きく減少している西成区の 4 区をとりあげ、その推移を 5 年毎で見ると、北区においても平成 47 年から平成 52 年にかけては減少している。

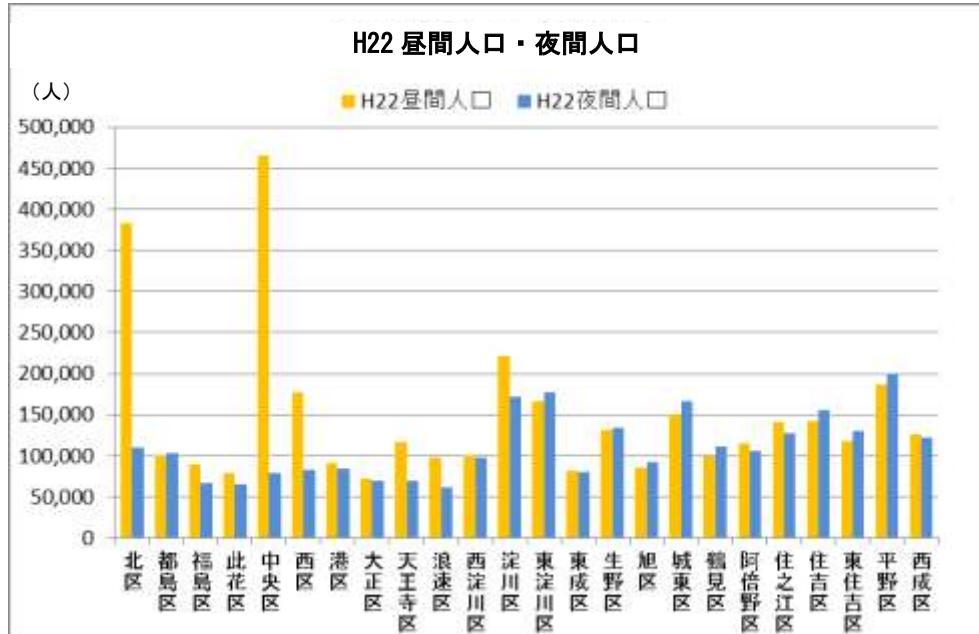


出典：日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

### (3) 昼間人口

各区の昼間人口をみると、中央区が46万5786人、北区が38万2705人と突出して多い。

昼夜間人口比率をみても、中央区が591.9、北区が346.7と突出して高い。

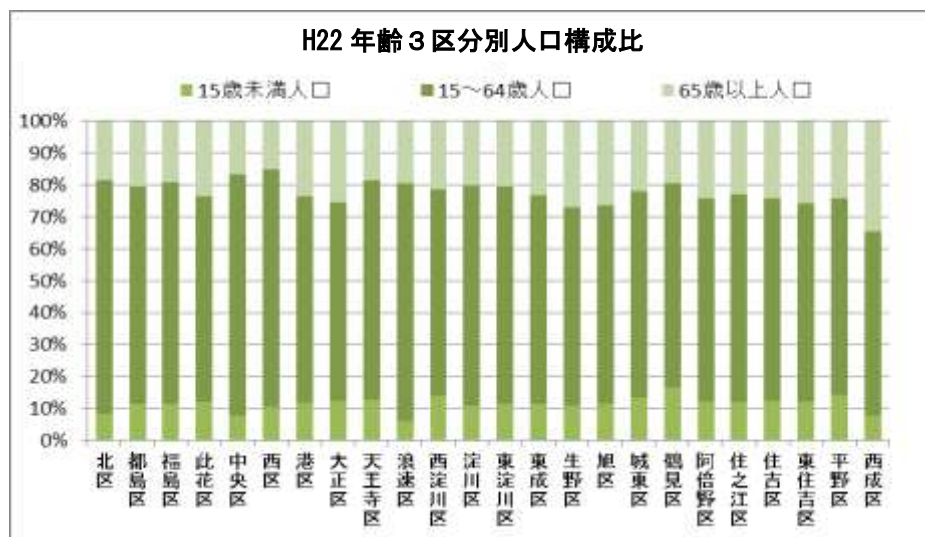


出典：平成 22 年国勢調査 (総務省統計局)

## 2. 区別の人口構造

### (1) 年齢3区分別人口割合

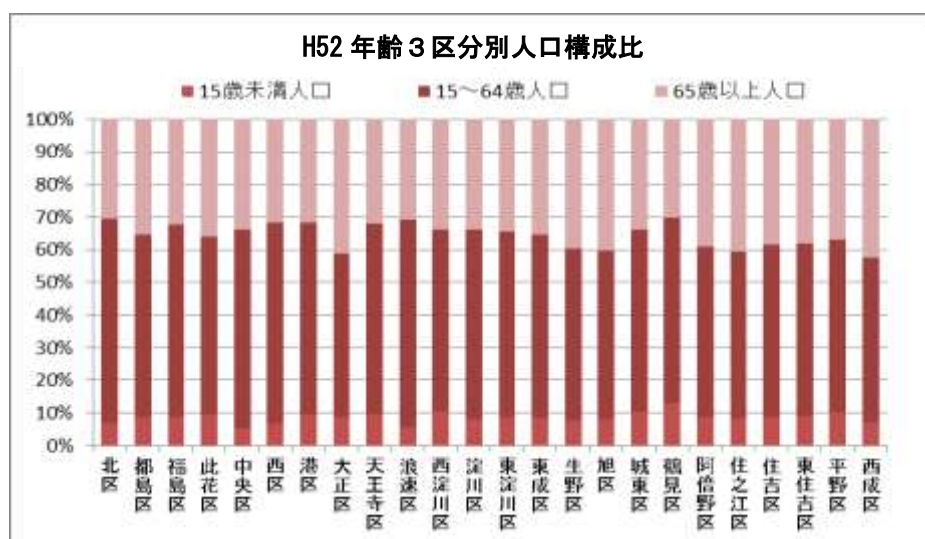
各区の15歳未満人口（年少人口）、15～64歳人口（生産年齢人口）、65歳以上人口（老年人口）の年齢3区分の人口割合をみると、年少人口割合は、鶴見区が16.6%、平野区が14.3%と高く、老年人口割合は西成区が34.5%、生野区が27.1%と高い。また、生産年齢人口割合は中央区が75.4%、西区が74.5%と高い。



出典：平成22年国勢調査（総務省統計局）

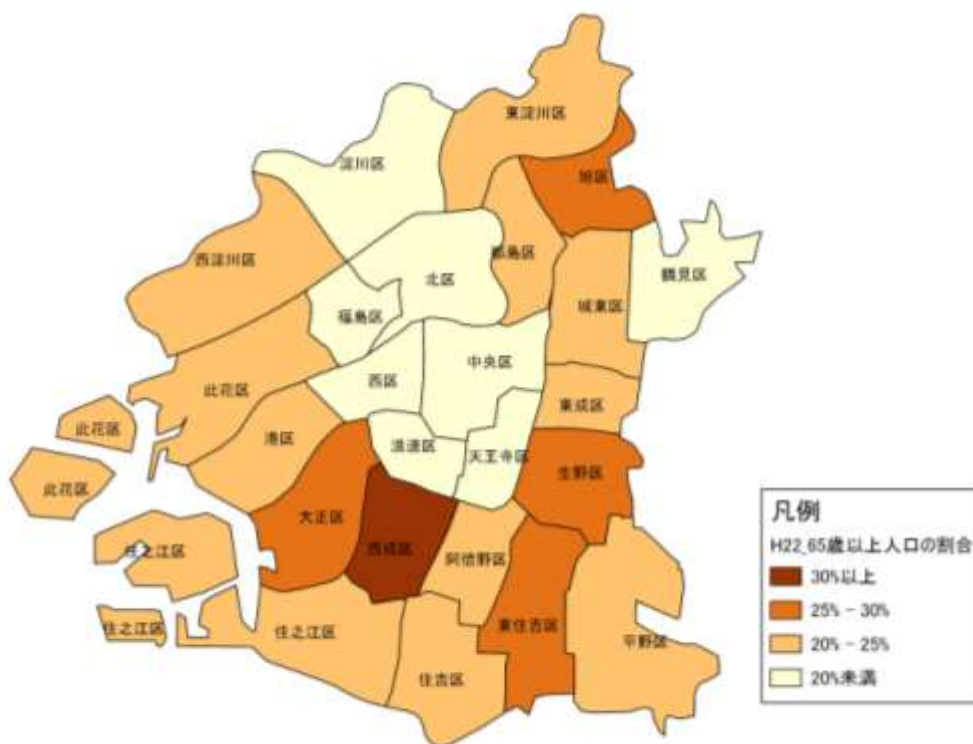
### (2) 将来推計人口における年齢3区分別人口割合

各区の平成52年将来推計人口における年齢3区分別人口割合をみると、老年人口割合は西成区で42.4%、大正区で41.1%と高い推計になっているが、平成22年と比べいずれの区でも上昇しており、区ごとの差が小さくなっている。



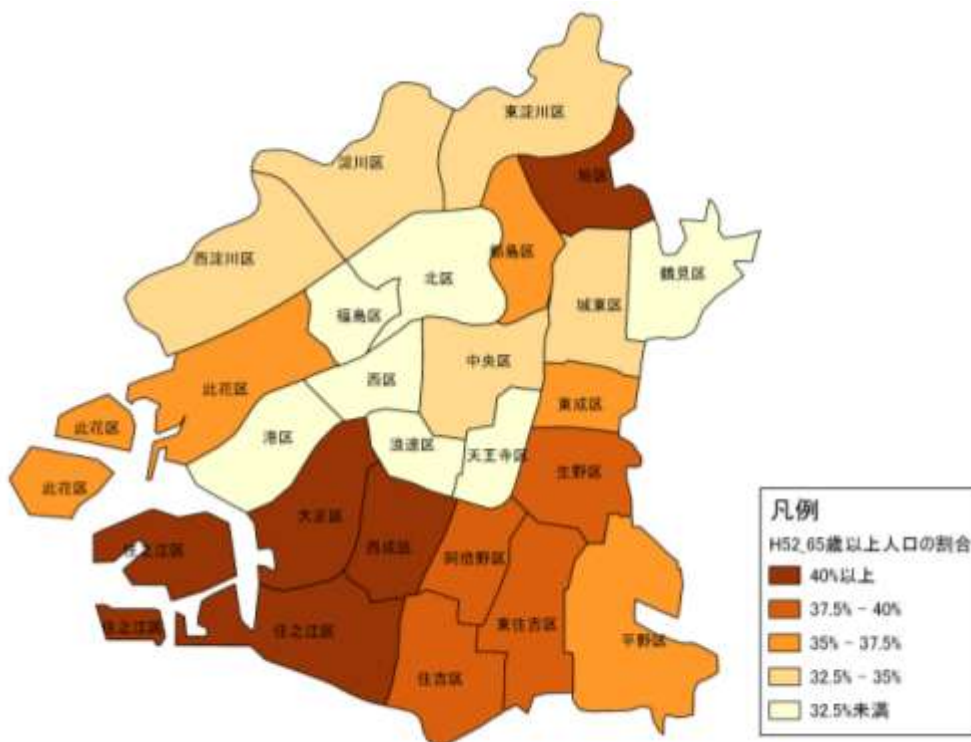
出典：日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

【平成 22 年の 65 歳以上人口の割合】



出典：平成 22 年国勢調査（総務省統計局）

【平成 52 年の 65 歳以上人口の割合】



出典：日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

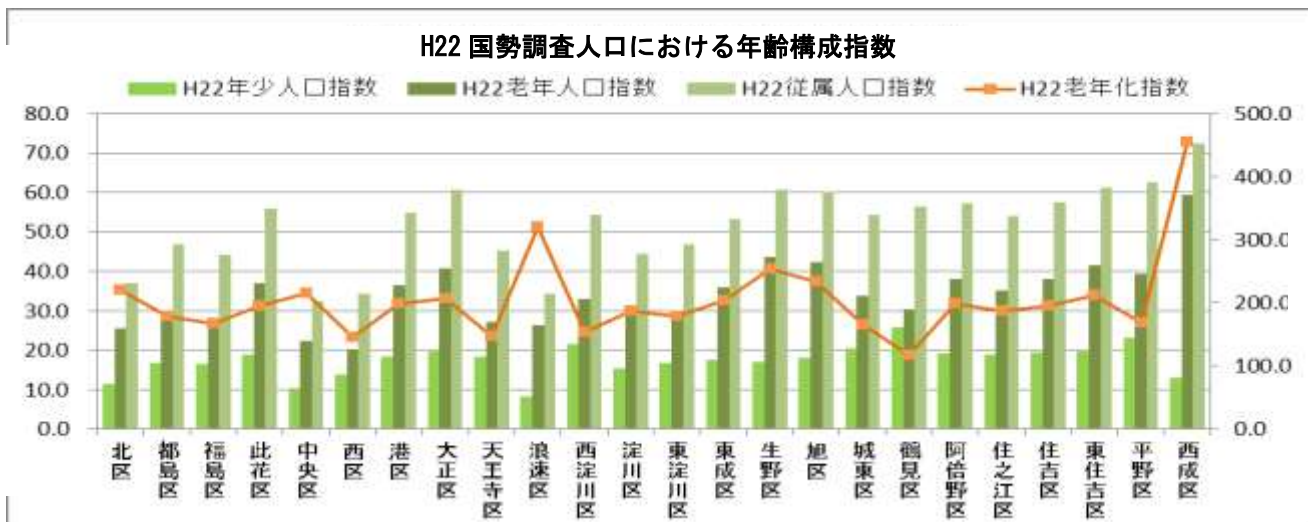
### (3) 年齢構成指数

平成22年の各区の主要な年齢構成指数をみると、従属人口<sup>\*</sup>指数は西成区が72.5、平野区が62.6と高い。また、西成区は老年人口指数が59.5と高いのに対し、平野区は年少人口指数が23.3と高い。

また、老年化指数は西成区が455.1、浪速区320.0と高い。

<sup>\*</sup>従属人口：14歳までの年少人口と65歳以上の老年人口を合計した人口。

年少人口指数・老年人口指数・従属人口指数

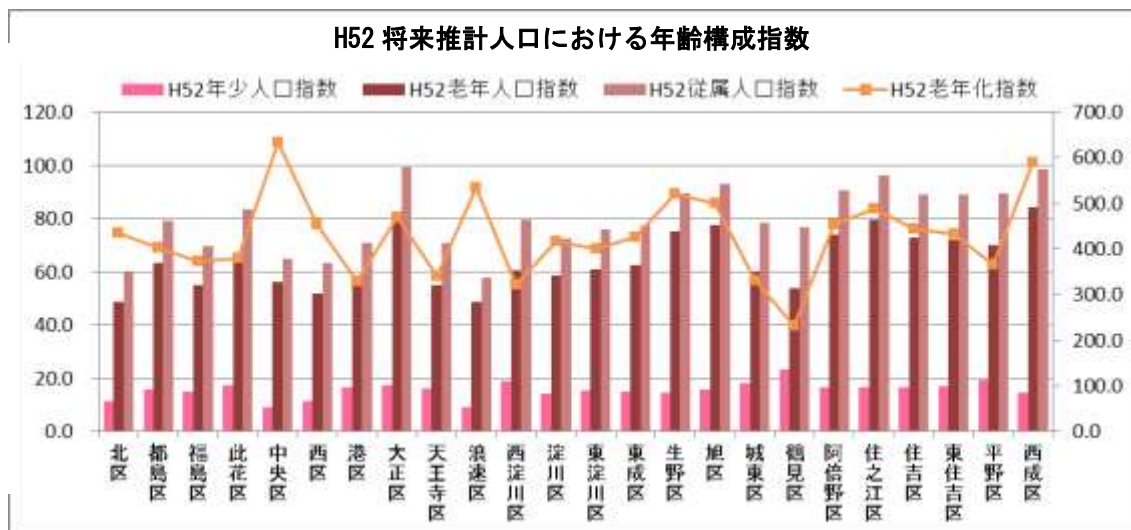


老年化指数

出典：平成22年国勢調査（総務省統計局）

平成52年の各区の主要な年齢構成指数をみると、いずれの区でも老年人口指数が大きく、中央区は老年化指数が632.6と24区で最も高い推計となっている。

年少人口指数・老年人口指数・従属人口指数



老年化指数

出典：日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

年少人口指数 = 15歳未満人口 / 15～64歳人口 × 100

老年人口指数 = 65歳以上人口 / 15～64歳人口 × 100

従属人口指数 = (15歳未満人口 + 65歳以上人口) / 15～64歳人口 × 100

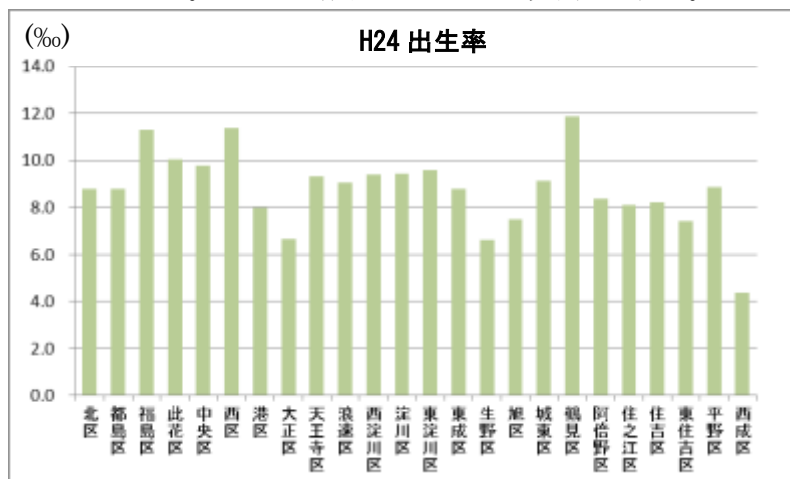
老年化指数 = 65歳以上人口 / 15歳未満人口 × 100



### 3. 区別の自然動態

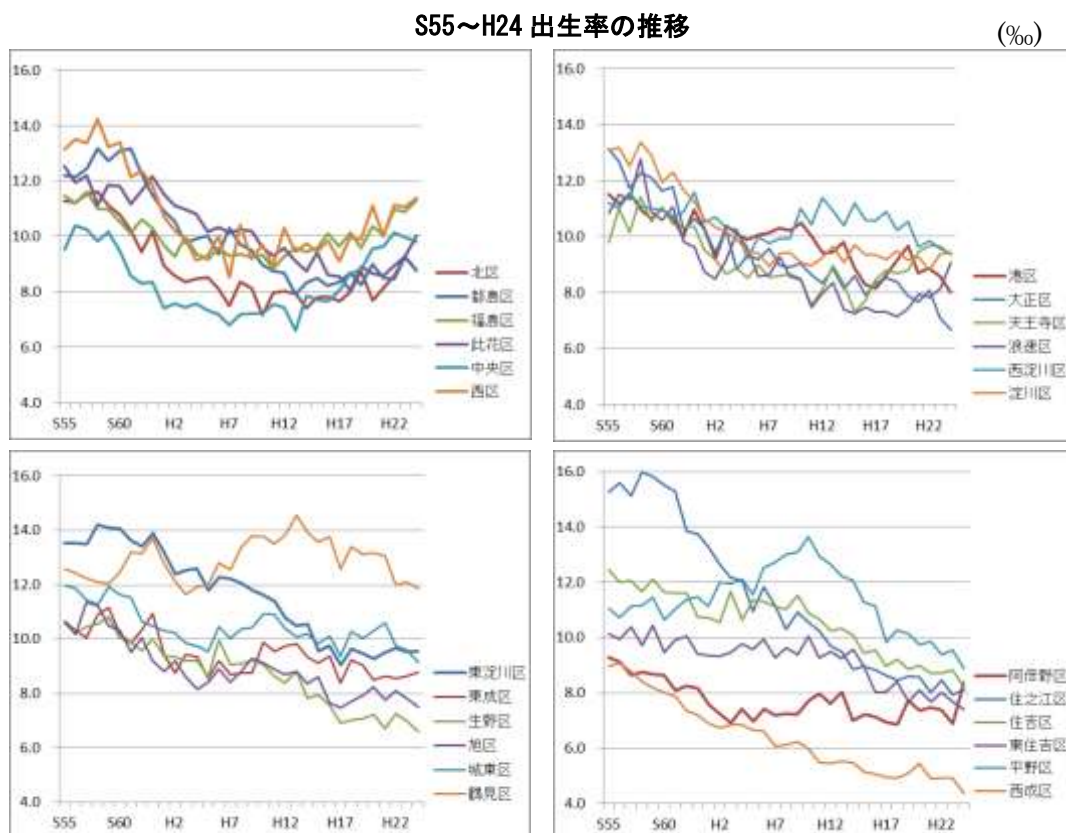
#### (1) 出生率の推移

各区の出生率をみると、鶴見区で11.9%と最も高く、次いで西区で11.4%、福島区で11.3%となっている。一方で西成区では4.4%と突出して低い。



昭和55年から平成24年までの推移をみると、平成24年の数値が高い3区でも、鶴見区では近年は低下傾向にあり、福島区、西区は上昇傾向にある。

西成区は一貫して低下傾向であり、近年は他区との差が拡大している。



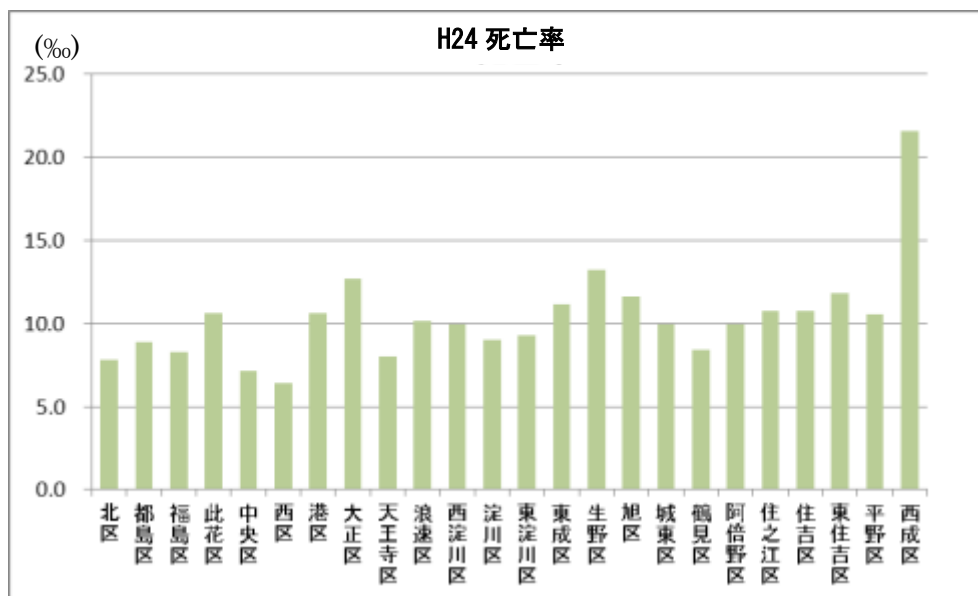
出典：大阪市都市計画局

※出生率は、1年間の出生数をそれぞれの10月1日現在の人口で除した数値である。

※ % (パーミル) は、千分の一を表す単位である。

## (2) 死亡率の推移

各区の死亡率をみると、西成区が 21.6%と突出して高く、西区は 6.4%と低い。

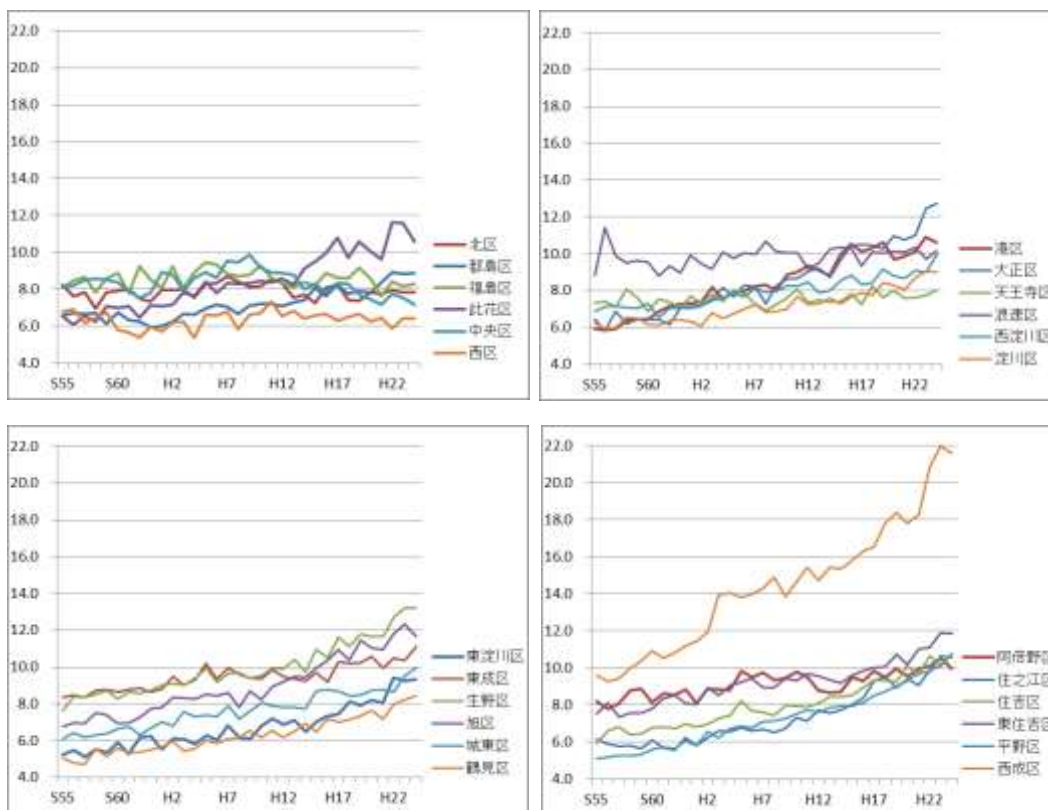


出典：大阪市都市計画局

昭和 55 年から平成 24 年までの死亡率の推移をみると、全体として上昇傾向にあるが、西成区で上昇率が特に高い。また、西区では横ばい傾向にある。

### S55～H24 死亡率の推移

(%)



出典：大阪市都市計画局

※死亡率は、1年間の死亡数をそれぞれの10月1日現在の人口で除した数値である。

### (3) 自然増減率の推移

各区の自然増減率をみると、西区が 5.0%、鶴見区が 3.5%と高く、西成区では△17.2%と突出して低い。

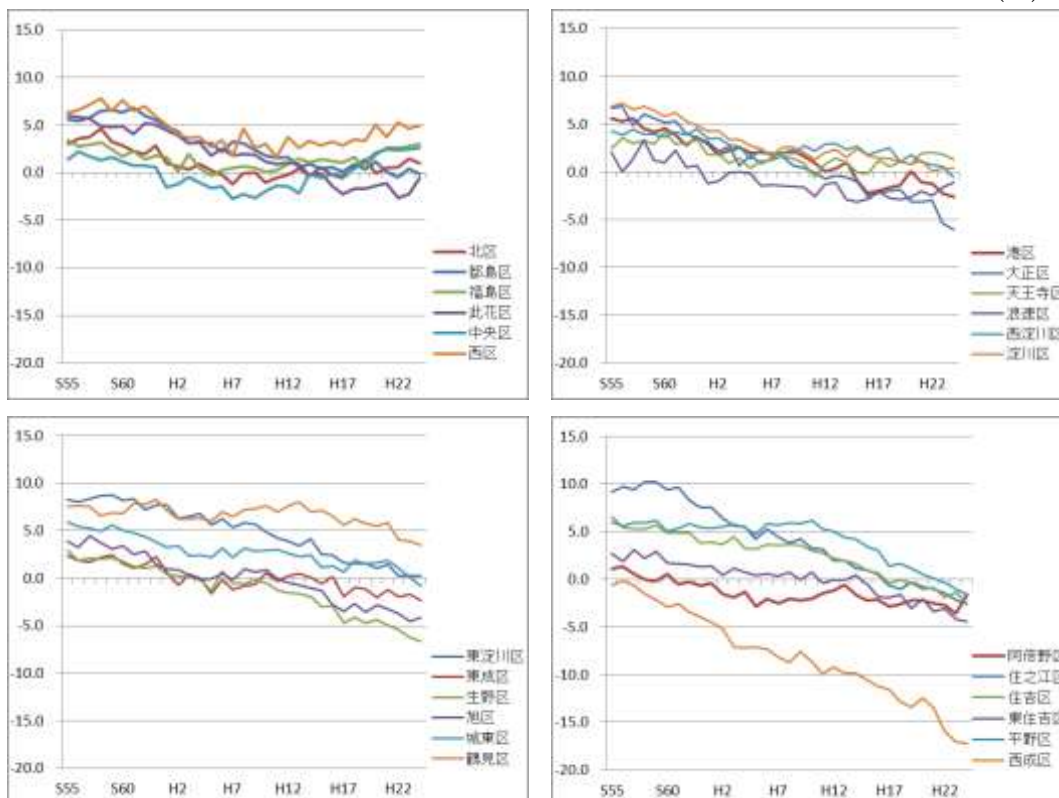


出典：大阪市都市計画局

昭和 55 年から平成 24 年までの、自然増減率の推移をみると、全体として低下傾向にあるが、西成区では特に大幅に低下している。また、西区、福島区は横ばい傾向から上昇傾向にある。

#### S55～H24 自然増減率の推移

(%)

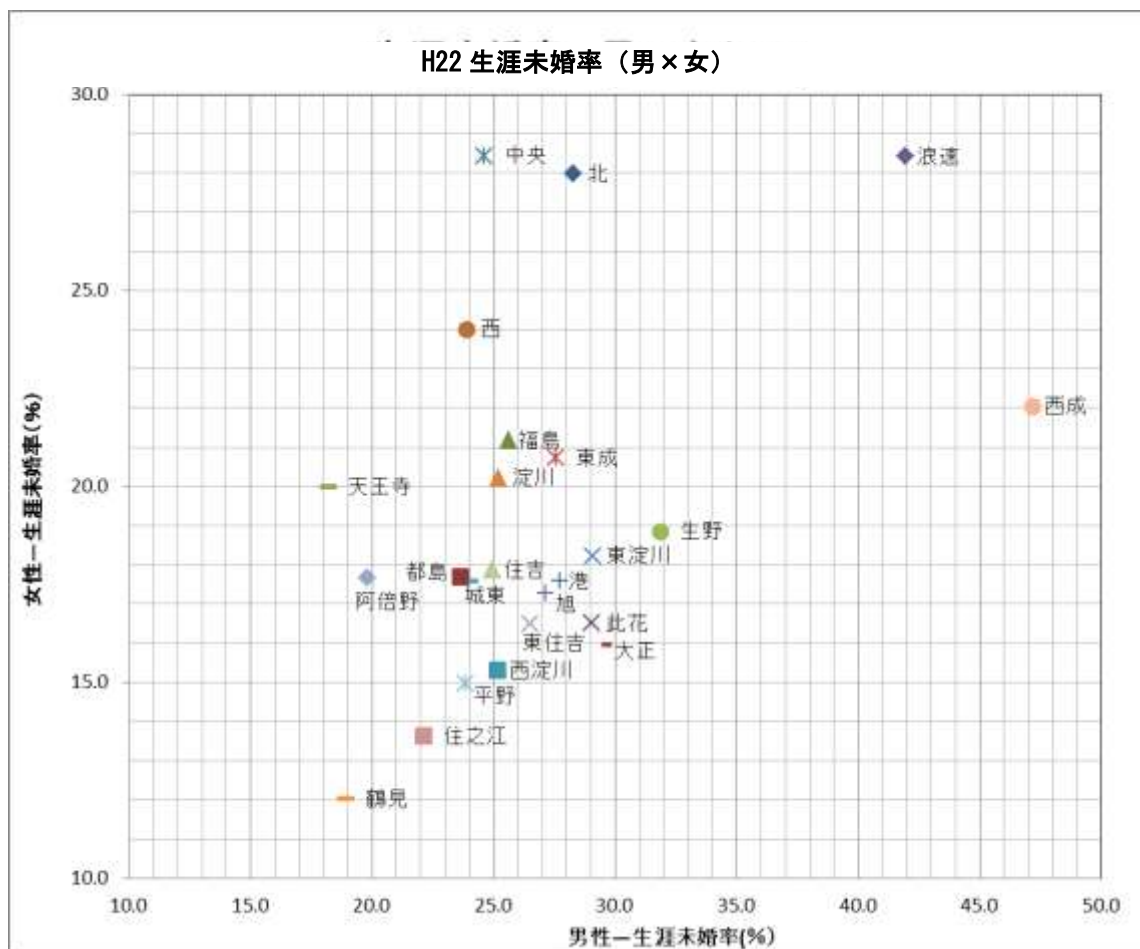


出典：大阪市都市計画局

※自然増減率は、1年間の自然増減数（出生－死亡）にそれぞれの10月1日現在の人口で除した数値である。

#### (4) 生涯未婚率

各区の生涯未婚率（男女）をみると、男性では西成区が 47.2%、浪速区が 41.9%と高く、女性では中央区、浪速区がともに 28.4%、北区が 28.0%と高い。



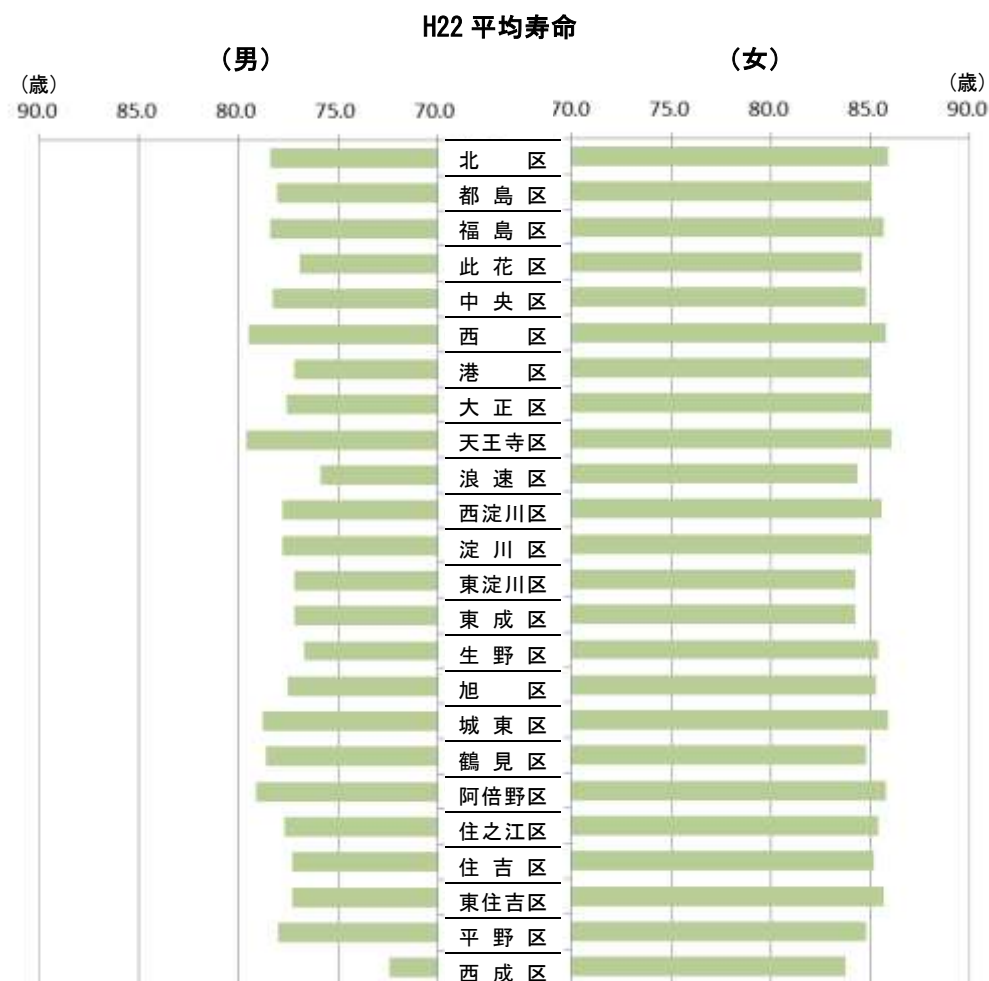
出典：平成 22 年国勢調査（総務省統計局）

※生涯未婚率・・・「45～49 歳」と「50～54 歳」未婚率の平均値から、「50 歳時」の未婚率（結婚したことがない人の割合）を算出したもの。

### (5) 平均寿命

各区の平均寿命（男女）をみると、男性では天王寺区が79.6歳、西区が79.5歳と高く、西成区が72.4歳と突出して低い。

女性では天王寺区が86.1歳と高く、西成区が83.8歳と低いが、男性に比べて各区の差は小さい。



出典：平成 22 年市区町村別生命表（厚生労働省）